

I. 令和3年度の運営総括及び来期の課題

当館は今年度で開館7年目を迎えることができました。新型コロナウイルスの影響で臨時休館となった期間がありましたが利用者にとって何が必要かを話し合うことができました。

コロナ禍で心が不安定になっている方が多いと感じます。外出する機会が減ってしまったことで、日常の不満や不安を吐き出せる場所がなく、孤独を抱えているように感じました。職員みんなで「保護者の心に寄り添うこと」を一番に考えようと話し合いました。保護者や子どもが「心の避難所」として使ってもらえるような児童館作りをしていこうと決めました。

SDGsの取り組み、おうち時間を楽しもうの企画、また、実施したアンケートの回答より0円バザーをやってほしいとの声が上がっており、学用品を含め実施を検討していこうと思います。

1. 乳幼児・保護者向け事業

(1) 総括

毎月、定例行事である『すくすくひろば』を企画・実施しています。親子のふれあい遊びや身体を動かすこと、絵本読み聞かせ、制作活動など、子どもの成長を感じられる場となっています。

コロナ禍で集まる場が減り、友達作りや悩み相談が難しくなっている保護者向けに『パパママタイム（しゃべり場）』を行いました。親同士で共感したり、質問したりしている姿が見られました。また、集う場では遠慮してなかなか自分の気持ちを話せない保護者もいるため、職員は保護者との1対1の関わりを大切に、日頃の育児や家庭の悩みなどの傾聴に努めました。

毎年、「子育てオーエンジャー☆みなみ」との連携による『わくわくひろば』を開催していましたが、臨時休館と重なったため中止しました。自主事業で『BP講座』を予定していましたが、定員が埋まらず残念ながら中止しました。今後も地域の要望に沿った企画を行い、地域の方々の繋がりを作る上で、継続していきたいです。今年度も、保育園から園外保育での来館があり、相互の交流を図ることができました。

(2) 課題

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、行事を縮小しました。外部講師への依頼を減らした他、保護者に需要がある季節の行事は参加人数や時間を分散し、企画を実施しました。保護者の心に寄り添い、自己肯定感があがるようにしていきたいです。また、行事の見直しを行い、地域の声を重視した企画を継続し、繋がり場の場となるように働きかけていきたいです。

保育園入園や子どもの発達、家庭環境などの保護者の悩みについて情報収集し、今後とも保護者と子どもの拠り所となる児童館を目指していきます。

2. 小学生事業

(1) 総括

幼児の頃から保護者と来館している子どもや園外保育で遊びに来た子どもたちが、小学生となってたくさん来館しました。また、定期的に来館してくれる常連の子どもが多いです。

今年度も「コロナ禍」でできる事を考え、引き続き『学習のつどい』を実施しました。保護者からの要望と児童館職員の思いから始まった学習のつどいも2年目になり、子どもたちの自発的な行動が見られます。子どもたちからは「楽しく勉強できてうれしい」「みんなでやるから頑張れる」などの声があります。毎週土曜日は「子ども達の週末の居場所」になっています。

昨年度の2月から放課後児童クラブ『茨っこクラブ』が児童館を毎日利用し、保護者の迎えが来るまで過ごしています。支援員不足のため、児童館職員が支援員のサポートをさせていただいています。今年度の冬休みからは活動拠点を茨曾根地域生活センターから児童館に移り、朝から夕方まで、子どもたちの元気な声が響き児童館に活気が戻ってきました。活動拠点が児童館になったことで、思いきり体を動かして発散する子どもや本を読んだり工作を楽しんだりと思い思いに時間を過ごしている様子が見られます。動きが多い遊びは児童館職員も一緒に、静の遊びは支援員が見守り、協力しながら過ごしています。子どもへの関わり方などを互いに学びながら活動ができ、どちらにとってもプラスになっていると感じています。

自由工作やカプラなどの制作が十分にでき、3密を防ぎ遊ぶことができるよう事務室前スペースや裏玄関も配置換えを行い、引き続き利用できるようにしています。

今年は「コミュニティ茨曾根 こども部会」との共催行事で『親子で iPad 教室』、

「下茨自治会」と「五九郎会」の『生き甲斐農園秋の収穫祭&親子焼き芋大会』の共催行事を行うことができました。『親子で iPad 教室』では親子で協力し、楽しみながら iPad にふれていました。五九郎会との『焼き芋大会』では多世代交流ができ自然の中でいきいきと活動していました。今後も安全安心を確保しながら、地域との交流を継続していきたいです。

(2) 課題

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動児童館を休止したことにより、新飯田、庄瀬地域の小学生の利用が少なかったです。今後の状況により、要望に応じて新飯田、庄瀬地域への移動児童館を再開したいです。

日頃来館している小学生の低学年、中学年の子どもたちが、高学年や中高生になっても継続して来館できるような環境を作っていこうと考えています。遊びに来ていた高学年の子どもたちに意見をもとめたところ、低学年の利用が多いことからイベントの内容が低学年向きになってしまっていて物足りなさを感じていました。そこで「豆まき」イベントと一緒に企画することにしました。怖い鬼を登場させて思いきり豆を投げて発散できる内容を企画していましたが、臨時休館になったため、今回は残念ながら実施できませんでした。来年度は一緒に企画運営をしていきたいです。身体を動かすことはもちろん、子どもの主体性を育む内容や、じっくり考える内容、ゲーム性のある高学年向けの行事の企画を実施していきたいです。また、勉強・宿題をする場、共に考え学ぶ場の提供をしていきます。居心地のよい必要性のある居場所にし、幅広い年代の子どもが楽しめるように環境整備をしていきたいです。

今後は、より地域との連携を強めていき、意見を取り入れながら一緒に作り上げていきたいと思います。

来年度もコミュニティスクールの一員として、白根南児童館が地域貢献できるよう努めていきたいです。

3. 中高生事業

(1) 総括

児童館に遊びに来た中高生が小学生と遊んでいる姿が見られました。また、高校生は職員と、アルバイトや部活動の話をして過ごしていました。自主的な活動やボランティア活動を行う機会を増やし、今後の利用に繋がるように働きかけていきたいです。また、

児童館職員と関わり、児童館を居場所として活用してほしいです。

例年受け入れている中学校の職場体験においては、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。職場体験で夏休みに児童館の様子や職員の仕事内容への理解をしたり、異世代交流ができたりするので新型コロナウイルスが落ち着いたらまた来ていただきたいです。長期休みなど時間に余裕がある時に、ぜひ利用してほしいです。児童館では可能な限り、自主性を重視した活動を行っていきたいです。夏休みに実施した『ぬりえコンテスト』では、中学生からぬりえの見本を作成してもらいました。きれいな色使いの作品を小学生や保護者は興味深そうに見ていました。

(2) 課題

幼児・小学生の頃から来館している子どもが、中高生になってからも来館してもらえるよう企画や環境を整備していきます。行事やボランティアなどで積極的に連携を図り、内容を充実させていきたいです。

4. 移動児童館

(1) 総括

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動児童館のPRはせず、要望のあった場所のみ移動児童館を実施しました。残念ながら児童館が臨時休館になり、学童クラブの『新飯田げんきっず』は中止となりました。

移動児童館が児童館の認知、来館に繋がっていることを実感しているので、子どもや保護者、地域からの要請、ニーズには、今後も可能な限り応えるようにしていきたいです。

(2) 課題

ボランティアや講師の方々の協力に加えて、職員の技術力向上に努め、体制を作っていきます。地域の子育て支援の先輩である「子育てオーエンジャー☆みなみ」との関係性も大事にしていきたいです。また、子どもたち自身の力を引き出せるような内容にしていきたいです。

来年度も、地域に根差した活動とネットワーク作りに取り組んでいきたいです。